鈴木商店調査書「日本金属株式会社」(原書 P48~54)

神戸市東川崎町一丁目

設立 大正五年五月

目的 冶金及採鉱又は之に関係せる化学工業

資本金 壱百萬円也 払込済

投資額 壱千六百萬円内外

重役の氏名左の如し

 取締役
 西川文蔵
 取締役
 村橋素吉

 同
 阿部元松
 同
 土屋新兵衛

 同
 服部馬太郎
 監査役
 宮本政次郎

監査役 濱田正稲

会社の沿革 現況

同社は鈴木商店の製錬、治金事業を統括せるものにして、神戸製鋼所と共に同店主要事業の一たり。欧州戦乱突発後、銅、亜鉛の輻輳し価格著るしく暴騰するや、益々事業の拡張、生産額の増加を図り大正五年一月、資本金壱百萬円払込済の株式会社を組織し、左記各所に製錬所及鉱山を所有し、進んで合金事業をも経営する計画にて、目下福岡県大里に工場設置準備中なり。

製錬所々在地

神戸(神戸市) 日比(岡山県) 彦島(下関市外)

徳山(山口県) 大里(門司市外)

鉱山事務所

 大弘(岡山県)
 紀州(和歌山県)
 宮古(磐手県)

 金辰(朝鮮)
 日山(福島県)
 畑(福岡県)

流填菜(岡山県) 春日(鹿児島県) 甑島(鹿児島県)

高濱(長崎県) 但馬粘土山(兵庫県) 赤松(兵庫県)

小城試錐場(佐賀県)

撰鉱所 朝鮮京城市外及仁川

亜鉛原鉱は鈴木商店に於て南支、南洋、濠州方面より買入れ、其他は中支那及内地で買入れ。 尚、所有鉱山より採掘に係るものを使用し、現今一ヶ年左の生産額を有せり。
 種類
 数量

 電気銅
 七千噸

 亜鉛
 壱万八千噸

 弱
 二万四千斤

 鉛
 四千噸

 銀
 壱千二百貫

 鉄屑
 壱千弐百噸

前記の如く同社の鉱山品は亜鉛及銅を主産品とし、他は従たる産物に過ぎず。 「前して、亜鉛は彦島精錬所にて、銅は日比製錬所にて、神戸及大里製錬所は主として支那厘銭 銅を製錬せしも、厘銭は既に中止せり。

徳山製錬所は亜鉛原鉱炭焼[®]所なり。彦島精錬所は現今、年産壱萬八千吨位なるも、目下拡張 計画中なるを以て、完成の上は約貮萬五千屯位の産額に達すべし。

大正六年上半期第一回営業成績を見るに、純益壱百参拾弐萬余円にして払込資本に対し拾参割余の利益なるも、固定資本に六百萬円、運転資金約壱千萬円、合計壱千五六百萬円を投じ居れり。

尚、同社の最近決算表左の如し

(単位:円)

| 資 産 之 部 | | 負 債 之 部 | |
|----------|---------------|---------|---------------|
| 土地建物 | 4,231,958.82 | 資本金 | 1,000,000.00 |
| 機械什器舩舶 | 1,687,300.08 | 借入金 | 15,405,765.90 |
| 工事仮払金 | 267,835.31 | 支払手形 | 1,500,000.00 |
| 仮払金 | 152,161.20 | 職員職工預金 | 23,688,82 |
| 未収入金 | 9,045.17 | 仮受金 | 301,403.60 |
| 貯蔵品 | 1,203,088.69 | 未払金 | 601,621.16 |
| 原料半製品及製品 | 12,183,325.80 | 当期純益金 | 1,326,274.95 |
| 銀行預金 | 409,590.06 | | |
| 現金 | 14,449.30 | | |
| 合計 | 20,158,754.43 | 合計 | 20,158,754.43 |

損益計算

金 百三拾二万六千二百七拾四円九拾五銭也

内

金 壱百萬円也 建物築造物償却損失金

差引

金 三拾貮萬六千貮百七拾四円九十五銭 当期純益金

分配

- 金 六萬六千円也 法定積立金
- 金 拾萬円也 配当準備積立金
- 金 拾萬円也 配当金(年一割)
- 〃 六萬○貮百七拾四円九拾五銭 後期繰越金